

ヒーローと悪役の名称比較

Marvel Comics のキャラクター名における音象徴

神谷 祥之介

1. はじめに

音象徴 (sound symbolism) とは、ある特定の音によって喚起される特定のイメージ (意味) であり、音声学、心理学、認知言語学等の幅広い分野で研究されているテーマである。有声阻害音は音象徴の研究において特に取り上げられる対象の一つであり、「汚い」などのネガティブな印象に結びつくことされる (Kawahara et al. 2008)。これに関連して Hosokawa et al. (2018) は、ディズニー作品中では有声阻害音は悪役の名称に多く使用されていることを報告し、有声阻害音と「悪役らしい」というイメージの音象徴的結びつきの存在を示した。この傾向は神谷 (2020a) による無意味語を使用した知覚実験の結果からも、人間一般的な感覚である可能性が示されており、英語母語話者において有声阻害音は無声阻害音、共鳴音と比較して「悪役らしい」と判断されやすいという傾向が得られている。一方で、神谷 (2020b) が実施した英語母語話者に対する実験研究からは、ヒーローの名前としては無声阻害音、共鳴音が有声阻害音よりも選択されやすいことが示されており、悪役とヒーローの名称に見られる音象徴的傾向には一定の違いがあることが示唆された。神谷 (2020a, b) によって示された傾向を表 1 に示す。しかし、ここで得られた無声阻害音、共鳴音が有声阻害音より「ヒーローらしい」というイメージに結び付けられやすいという傾向は、無意味語による実験の結果に限って観察されたものであり、既存の作品にも同様の傾向が見られるかどうかは未だ明らかとなっていない。そこで本研究では、実験研究によって示唆された英語のヒーローと悪役の名称における音象徴的傾向の違いが、既存の作品中にも同様に観察されるかどうかを調べるために、以下のような調査を行なった。

表 1 無意味語による実験から得られたヒーロー／悪役の名称に見られる音象徴的傾向 (神谷 2020a, b)

| | |
|-------------|--|
| ヒーローらしさの度合い | 無声阻害音 > 有声阻害音 ; 共鳴音 \geq 有声阻害音 ; 無声阻害音 = 共鳴音 |
| 悪役らしさの度合い | 有声阻害音 > 無声阻害音 > 共鳴音 |

2. 調査

本研究は調査対象として *Marvel Comics* シリーズに登場するキャラクター (英語名) を選択し、作中でヒーロー、および悪役 (ヴィラン) として描かれたキャラクターの名前に使用されている子音の分布を比較した。データの収集に関しては、web サイト *Marvel.com* および、*Marvel encyclopedia New edition* (Defalco et al. 2020) で紹介されているキャラクターのうち、ヒーロー、および悪役のチームに所属するキャラクターのみを分析の対象とした。分析に際しては、*The CMU Pronouncing Dictionary* の機能を使用して、各キャラクターの名前を ARPAbet に置き換えた上で、子音数をカウントした (例: Iron Man \rightarrow AY ER N MA EN)。最終的に分析対象となったキャラクターは 385 名 (ヒーロー: 258 名 / 悪役: 127 名) であった。

Marvel Comics シリーズに登場するキャラクターの名称には実在語が多く含まれており、結果に示される分布は、単に英語全体に見られる子音の分布と類似している可能性も十分に考えられる。これを検証するために、本研究ではまず、調査で得られたヒーローと悪役の名称に使用されている子音の分布を、カイ二乗検定によって英語全体の子音の分布と比較した。英語全体の子音の分布としては、英語の話し言葉に見られる音素の分布を記述した Denes (1963)、および Mines et al. (1978) のデータを使用し、比較には双方を足し合わせたものを使用した。調査によって得られたヒーロー名と悪役名、および英語の話し言葉に見られる有声阻害音、無声阻害音、共鳴音の出現率を以下に示す (表 2, 図 1)。その後、ヒーローと悪役の名称における有声阻害音、無声阻害音、共鳴音の出現率を比較し、既存のヒーロー名と悪役名の間にも一定の音象徴的傾向の違いが見られるかどうかを検証した。すべての分析の結果から得られた傾向を (1) に示す。

- (1) a. ヒーロー名、悪役名、および英語の話し言葉に見られる有声阻害音、無声阻害音、共鳴音の分布には、統計的な有意差が見られた ($\chi^2 = 38.83, df = 4, p < 0.01$)
- b. ヒーロー名、悪役名、および英語の話し言葉のすべてにおいて、子音の出現率の序列は共鳴音 > 無声阻害音 > 有声阻害音であった
- c. ヒーロー名における有声阻害音の出現率は、悪役名に見られるそれと比べて相対的に低かった (有声阻害音と他の子音の出現率の差が悪役名よりもヒーロー名の方が大きい)

表2 有声阻害音・無声阻害音・共鳴音の分布

| | 有声阻害音 | 無声阻害音 | 共鳴音 |
|--|---------------|---------------|---------------|
| ヒーロー名 | 207 (18.7%) | 430 (38.9%) | 468 (42.4%) |
| 悪役名 | 126 (23.8%) | 194 (36.6%) | 210 (39.6%) |
| 英語の話し言葉 (Denes 1963, Mines et al. 1978) | 26327 (26.8%) | 34961 (35.6%) | 37012 (37.6%) |

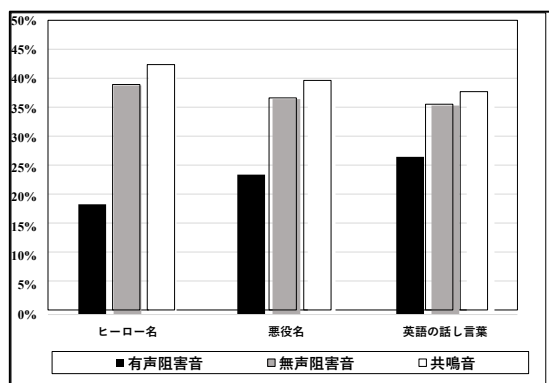


図1 ヒーロー名、悪役名、英語の話し言葉における各子音の出現率を示すグラフ：ヒーロー名と悪役名のデータは本研究の調査結果、英語の話し言葉に関しては Denes (1963) と Mines et al. (1978) に記載されているデータを足し合わせたものを使用している。

3. 考察・まとめ

本研究では、音と「ヒーローらしさ」および、「悪役らしさ」のイメージの結びつきを、*Marvel Comics* シリーズに登場するキャラクター名の分析を通して検証した。調査の結果から、まず、ヒーロー名、悪役名、および英語の話し言葉に見られる子音の分布には統計的に有意な差があることが判明した。このことから、既存のヒーローと悪役の名前に見られる子音のパターンは、単に英語全体の子音の分布に沿うものではないことが示唆された。また、本研究の結果から示されたヒーロー名と悪役名における有声阻害音、無声阻害音、共鳴音の出現率の序列は、先行研究が行った無意味語の実験結果に沿うものではなかった。しかし、結果に示された子音の分布を観察すると、ヒーロー名における有声阻害音の出現率は悪役名よりも相対的に低いことが分かる。この結果から、既存の作品中に登場するヒーロー、および悪役の名称に関しては、有声阻害音の出現率の相対的な差によって音象徴的傾向が表されている可能性が示された。

謝辞

本研究の調査実施にあたっては、福岡大学音声学実験室研究プロジェクトからの援助を得た。ここに記して深謝の意を表する。

引用文献

- Defalco, Tom, Peter Sanderson, Tom Brevoort, Michel Teitelbaum, Daniel Wallace, Andrew Darling, Matt Forbeck, Alan Cowsill and Adam Bray et al. (2019) *Marvel encyclopedia new edition*. London: Dorling Kindersley Limited.
- Denes, Peter B. (1963) On the statistics of spoken English. *The Journal of the Acoustical Society of America* 35(6): 892-904.
- Hosokawa, Yuta, Naho Atsumi, Ryoko Uno and Kazuko Shinohara (2018) Evil or not? sound symbolism in Pokémon and Disney character names. A poster presented at the 1st Conference on Pokémonastics. Keio University, 26 May 2018.
- Kawahara, Shigeto, Kazuko Shinohara and Yumi Uchimoto (2008) A positional effect in sound symbolism: An experimental study. *Proceedings of the 8th Annual Meeting of the Japanese Cognitive Linguistics Association*, 417-427.
- 神谷祥之介 (2020a) 「悪役名における音象徴 — 英語母語話者に悪役らしさを喚起する子音の調査」『英文学研究 支部統合号』13: 263-277.
- 神谷祥之介 (2020b) 「英語における音象徴：ヒーローのイメージに関する実験研究」日本英文学会九州支部第73回大会(ウェブカンファレンス)。オンラインによる口頭発表，2020年10月24日-28日。
- Marvel.com, <https://www.marvel.com> [2021年10月アクセス].
- Mines, Ardussi M., Barbara F. Hanson and June E. Shoup (1978) Frequency of occurrence of phonemes in conversational English. *Language and Speech* 21(3): 221-241.
- The CMU Pronouncing Dictionary, <http://www.speech.cs.cmu.edu/cgi-bin/cmudict> [2021年10月アクセス].